



## 米作りがスタートしました！

雨天のため、順延になった5月22日（火）、米作りのための「粃まき」を5年生が行いました。校区内で農業を営まれている岡部さんにお世話になり、保護者の方にもご協力いただきながら、米作りの第一歩である「粃まき」が無事に終了しました。現在、まいた粃は小さな芽を出し、成長し始めました。これから「田植え」までの期間、育苗箱に毎日水やりを行っていきます。



## 交通安全教室を行いました！（4年生）

5月30日（木）、4年生の「交通安全教室」が開かれました。伊勢崎警察署の方をはじめ交通指導員さん、町役場生活環境安全課の方、学年委員さんに来校していただき、自転車の交通ルール、マナー、自転車点検の仕方の講話いただくとともに、自転車の乗り方の実技訓練等を行いました。



### 《自転車安全利用5則》

- 1 自転車は、車道が原則、歩道は例外（歩道と車道の区別があるところでは車道を通行するのが原則です。）
  - 2 車道は左側通行（基本的に自転車で車道の中央や追い越し車線を通行することはできません。）
  - 3 歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行（普通自転車は、道路標識で指定された場所や、車道の道幅が狭いといったやむを得ない場合に、例外として歩道を走れます。歩道を通行するときは、すぐに停止できる速度で車道寄りを徐行し、歩行者の通行を妨げる場合には一時停止しなければなりません。なお、自転車から降りて手で押す場合は“歩行者”とみなされます。）
  - 4 安全ルールを守る（二人乗りは禁止。「並進可」の標識がある場所以外で2台以上が並んで走るのも禁止です。そして信号は必ず守ること。信号がない交差点では一時停止の標識などを守り、安全確認を行うなど、自分の命の安全のため、ルール＆マナーを守りましょう。）
  - 5 子どもはヘルメットを着用する（ヘルメットは、大切な頭部を守る重要なアイテムです。児童は自転車に乗るときは乗車用ヘルメットを着用しましょう。）
- ※ 最近、子どもたちがヘルメットを着用せずに自転車に乗っている姿が目立ちます。自転車に乗る場合は、必ずヘルメットを着用するようにご家庭でも指導をお願いします。

# 小学生の勉強時間はどのくらい？勉強を習慣化するおすすめ勉強法！

小学生のお子さんをお持ちの親なら、他の家庭の子供がどのくらい勉強をしているのか気になるのではないのでしょうか。そこで今回は、小学生の勉強についてリサーチしてみました。小学生に必要な勉強時間や、小学生が勉強を習慣化するためにできることとは？また、小学生におすすめの勉強法や家庭学習に役立つ小学生におすすめの教材も紹介したいと思います。これを参考にいただき、お子さんの勉強をうまくサポートしてあげてください。



## 1. 小学生の勉強時間はどれくらい必要なの？

小学生の授業外の平日平均学習時間はどのくらいなのでしょう。「ベネッセ「第5回学習基本調査」データブック[2015]」によると、平均1時間35分ということがわかりました。この学習時間は、2006年に調査を実施したときよりも14分程度増えています。同様の調査から、学習時間のデータが出ています。授業外の平日平均学習時間をもっとも少ない小学生は、「ほとんどしない」と回答。多い小学生は3時間30分以上も学習していたのだそうです。3時間30分もの学習をしているか、していないかでは、学力の差が開くのは言わずもがなですね。

## 2. 目安としたい小学生の勉強時間は「15分×学年数」

小学生の家庭学習時間は「15分×学年数」が目安です。1年生なら15分、6年生なら90分ということになります。少ないように思われるかもしれませんが、学習時間が長いことが、必ずしも子供たちの成績向上につながるわけではないようです。この目安に即して学習するには、「集中して勉強すること」を意識する必要があります。

## 3. 小学生が勉強を習慣化するためにできること

勉強を習慣化することも大切です。習慣化することで、自ら机に向かうようになり、集中力も養うことができます。ぜひ、やってみてください。勉強が習慣化できない理由には、集中力がないこと、毎日勉強できないことがあげられます。習慣化するためには、毎日一定時間、決まった場所で、学習に取り組むようにするのをおすすめします。また、勉強をしたくない理由で考えられるのは、「勉強が難しくなった」と感じたときや、勉強につまずいたときです。ようするに、勉強が「おもしろくない、つまらない」と感じることにあるのです。そんなときには、つまずいている部分を明らかにし、反復練習をするようにしましょう。少し辛抱がいらしますが、基礎・基本に立ち返り、苦手をクリアすることで、自信が付き、「もっと勉強したい」という気持ちが起こるはずですよ。

## 4. やる気を出させるためのコツ

子どもをやる気にさせるには、声かけが有効です。保護者は、「3H(ほめる、はげます、ひろげる)」を意識した声かけをしましょう。

- ほめる  
「すごいね、やったね、〇〇さん」「こんなに上手に書けるんだね」
- はげます  
「計算ミスが少なくなってきたね。この調子で毎日続ければもっとよくなるよ」
- ひろげる  
「たかさんのことわざを覚えてすごいね。他にどんなことわざがあるか、辞典で調べてみよう」

## 5. 親の勉強の教え方

親が子供に勉強を教えるときは、まずは学習しやすい環境づくりを子供といっしょにしましょう。たとえば、子供が集中力を高めて学習できるように、テレビを消したり、机の上を片付けるといったことです。いよいよ子供が勉強する場面になったら、親は学習の様子を見届けるようにします。ここで、あまり横からあれこれ口出ししないでくださいね。子供のやる気を削いでしまいます。子供から「ここがわからない」と聞かれたときに、教えてあげるようにしてください。そのとき、「なんでわからないの！」と怒ったり、叱ったりしないように。学習が終わったら、「3H(ほめる、はげます、ひろげる)」の声かけをしましょう(上記参照)。そして、テストや学習に関するプリント等は、しっかりとファイルさせ、その後いつでも復習しやすいように整理させるとよいでしょう。

## 6. 小学生に勉強を教えるときの基本姿勢

勉強をしたがらない子は多いもの。そのようなときは、「今から一緒に勉強しよう！」と、子供に声をかけてみてください。勉強を自主的にさせるのではなく、親と一緒に時間を過ごす、という演出をすると、ほとんどの子供は素直に机に向かいます。そして、「叱らない」が、親子で学習するときの鉄則。横から口出しをしないように見守る姿勢が大切です。

【次号へ続く】